

国語科	科目	文学国語	(必修)	授業時数	2	単位
				履修学年	3	学年

目 標	言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-----	--

●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 2 時間	3 学期	1 8 時間
第 1 章 評論	5	第 5 章 評論		第 7 章 随筆	6
1 「小説とは何か」(三島由紀夫)		1 「絵画は紙幣に憧れる」(樫木野	4	1 「ある〈共生〉の経験から」(石原吉	
第 2 章 近代小説	6	衣)	4	郎)	
1 「水仙」(太宰治)		2 「隠れん坊の精神史」(藤田省三)	5	第 8 章 近代小説	5
第 3 章 評論	5	3 「陰翳礼賛」(谷崎潤一郎)	5	1 「藤野先生」(魯迅)	
1 「化物の進化」(寺田寅彦)		4 「無常ということ」(小林秀雄)	4	第 9 章 評論	7
第 4 章 随想	4	5 「骨とまぼろし」(真木悠介)	10	1 「寛容は自らを守るために不寛容に	
1 「異なり記念日」(齋藤陽道)		第 6 章 近代小説		対して不寛容になるべきか」(渡辺一	
		1 「こころ」(夏目漱石)		夫)	

教材	授業の進め方
教科書:「文学国語」(筑摩書房) 副教材:「文学国語 準拠ワーク」(筑摩書房) 自主作成教材(プリント)	国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指して、言葉による見方・考え方を働かせて様々な言語活動を行う。 具体的には、教科書で扱う様々な教材をもとに、文章読解やレポート作成などの「読む」「書く」活動や、グループでの話し合いなどの「話す」「聞く」活動を行っていく。また、定期考査を通して定着度を測る。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点		知識・技能（技術）	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
	習得する (わかる)	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	文章を書くために、題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にし、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈する。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法		・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み精度

単元別 評価規準

第1章 評論「小説とは何か」(三島由紀夫)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	解釈の多様性について考察し、人間・社会・自然・などに対するものの見方、感じ方、考え方を深め、表現できる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第2章 近代小説「水仙」(太宰治)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味したり、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。	本文中の心情を示す言葉を根拠に、読解を深めている。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第3章 評論「化物の進化」(寺田寅彦)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	読解を通して、人間・社会・自然・などに対するものの見方、感じ方、考え方を深め、表現できる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	文章の種類を踏まえて、内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第4章 随想「異なり記念日」(齋藤陽道)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、伝わりやすい文章を書くことができる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に理解している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第5章 評論 「絵画は紙幣に憧れる」(榎木野衣)「隠れん坊の精神史」(藤田省三)「陰翳礼賛」(谷崎潤一郎)
「無常ということ」(小林秀雄)「骨とまぼろし」(真木悠介)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈できる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	具体と抽象の区分け、すなわち個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第6章 近代小説 「こころ」(夏目漱石)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味したり、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。	本文中の心情を示す言葉を根拠に、読解を深めている。「K」が自殺をした理由について考察を深め、理解している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第7章 随筆 「ある〈共生〉の経験から」(石原吉郎)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、伝わりやすい文章を書くことができる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に理解している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第8章 近代小説 「藤野先生」(魯迅)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	文章をより深く理解するための、語意・文法・構成・表現の効果・展開という要素を踏まえて、物語を解釈できる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	語感を磨き、語意を豊かにしている。	国と国の文化の違いに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。

第9章 評論 「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」(渡辺一夫)

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使うことができる。	教材で挙げられた作品が成立した背景や、他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートができる。
	習得する (わかる)	新たな文学観を獲得することの大切さについて理解している。	自分の考えや見方について相手にわかりやすく説明している。	教材の内容に関心を持ち、言葉が持つ価値への認識を深めようとし、粘り強く言語活動を行う。